

ネット配信版・新つれづれ草に掲載の「私たちのマンガ史」は、東京都江東区・森下文化センターにて2016年10月21日（金）から30日（日）の会期で開催しました、新つれづれ草マンガ展「私たちのマンガ史」で展示した展示物を再構成したものです。

私たちのマンガ史
マンガ家デビュー秘話

1970年代初頭、マンガ家になることを夢に見て、その夢に全力で向かっていったマンガ少年たちがいた！

マンガ家としてデビューしたのか？
それとも、しなかったのか？
パネル展示と当時の原画、掲載誌、資料等で今だから語れる、それぞれのマンガ史をご覧ください

手塚治虫の「マンガの描き方」
石森章太郎の「マンガ家入門」
雑誌COMの創刊、サンデー・マガジンの大ヒット
少年ジャンプ創刊、手塚賞・赤塚賞新人賞へ投稿……

イラスト：KINKAN

入場：無料

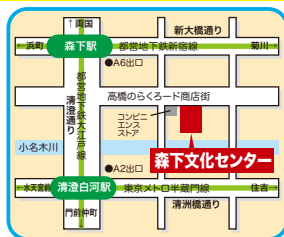
日時：10月21日（金）～10月30日（日）
午前9時より午後9時まで（最終日は午後5時まで）

会場：森下文化センター1F展示ロビー

お問合せ：森下文化センター

〒135-0004 東京都江東区森下3-12-17
TEL03-5600-8666 FAX03-5600-8677
都営地下鉄新宿線・大江戸線「森下」駅A6出口より徒歩8分
都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線「清澄白河」駅A2出口より徒歩8分
<http://www.kcf.or.jp/morishita/>

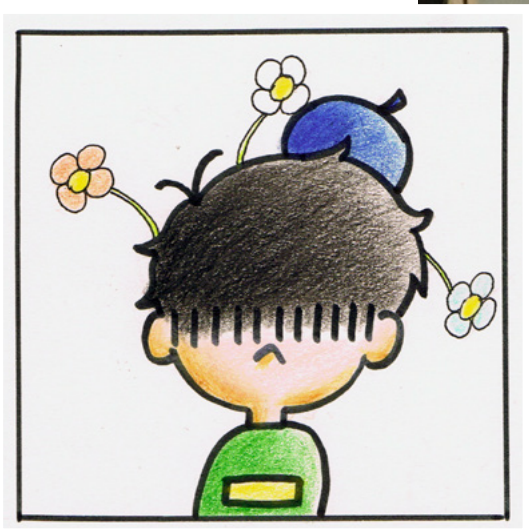
主催・新つれづれ草 共催・森下文化センター



■ 私たちのマンガ史

高見沢 和

ぼくのマンガとの出会い



子どもの頃、兄が面白そうにマンガを読んでいました。ぼくは何がそんなに面白いのかと思い、兄がいなくなつてからマンガ本を読むと、面白くて止まらなくなり、大笑いしながら読みました。それがぼくのマンガとの出会いでした。

その頃のマンガで特に面白かったのは、手塚治虫の「勇者ダン」や赤塚不二夫の「おそ松くん」でした。それから、近所の友だちとマンガ本の絵の模写をはじめました。といつても遊びでしたが。



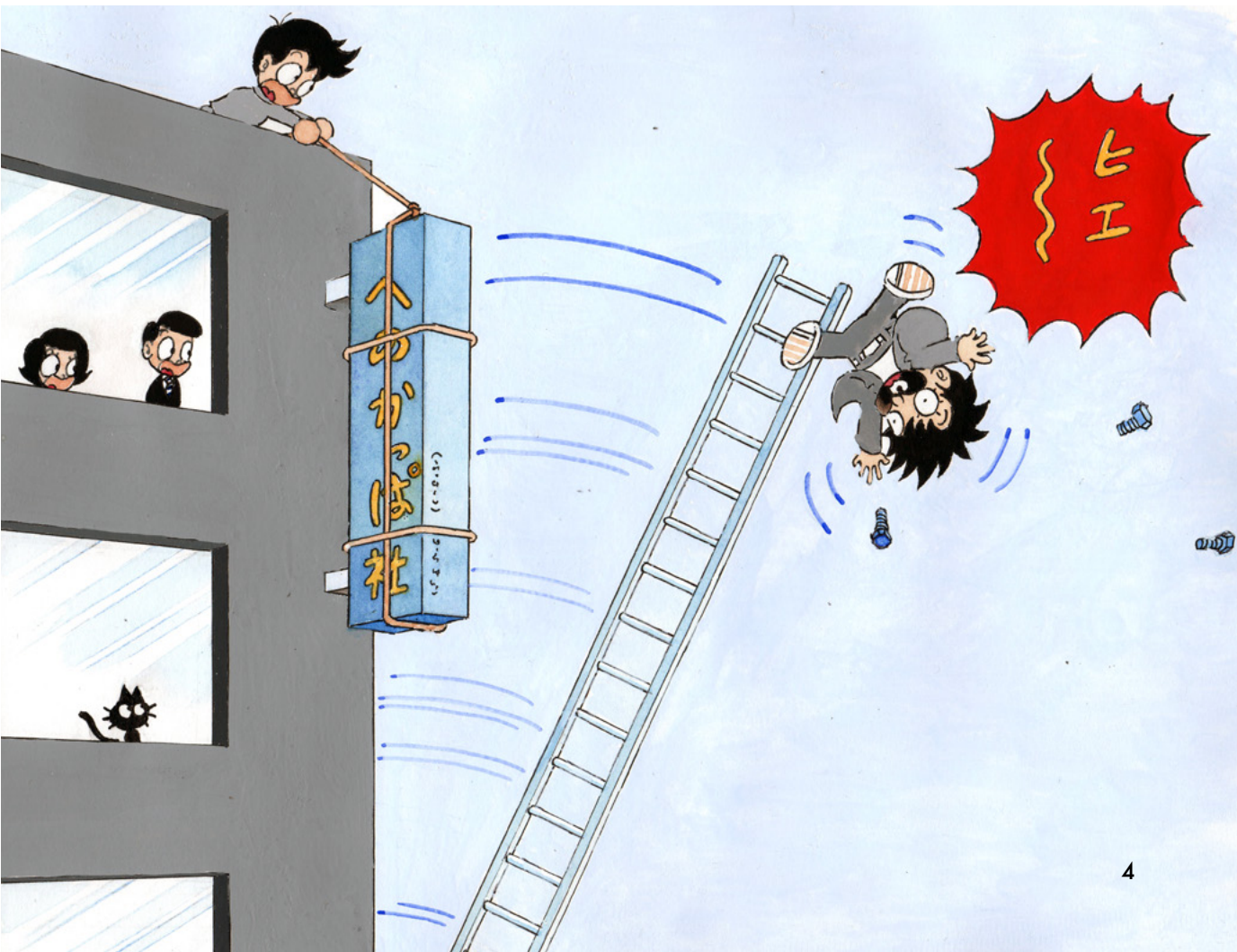
看板屋につとめていた時に、会社の人達とお花見に行ったときのことを良く覚えています。

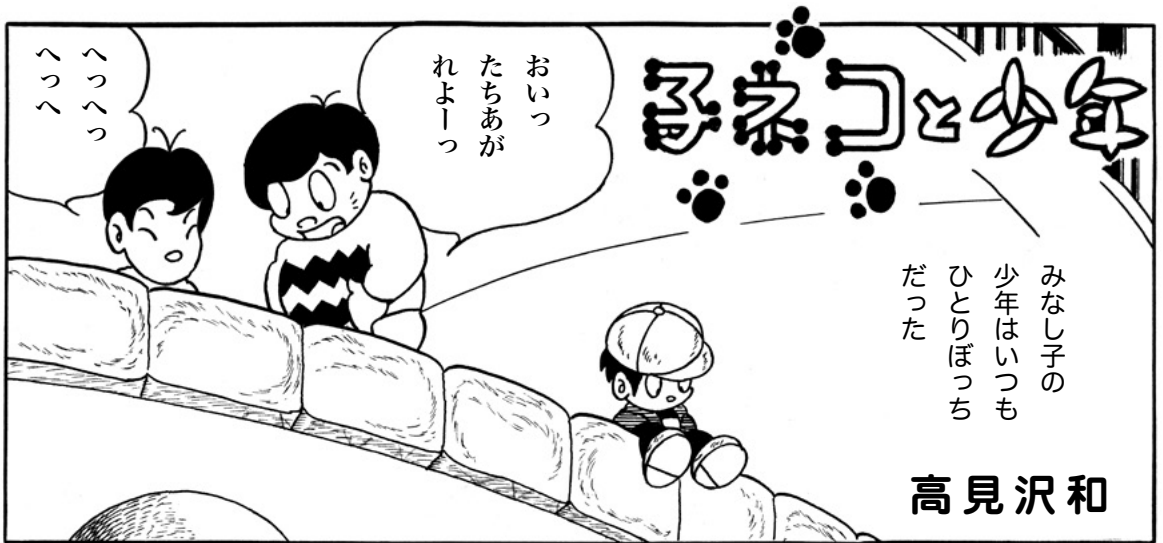
ぼくは十代の頃、ふるさとの小さな看板屋で働いていました。看板はたい
てい高い場所に取り付けます。田舎の
小さなビルディングばかりとは言え、
高所恐怖症のぼくは高いところが苦手
でした。

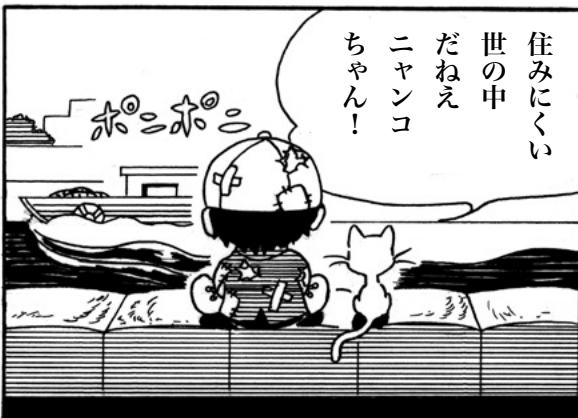
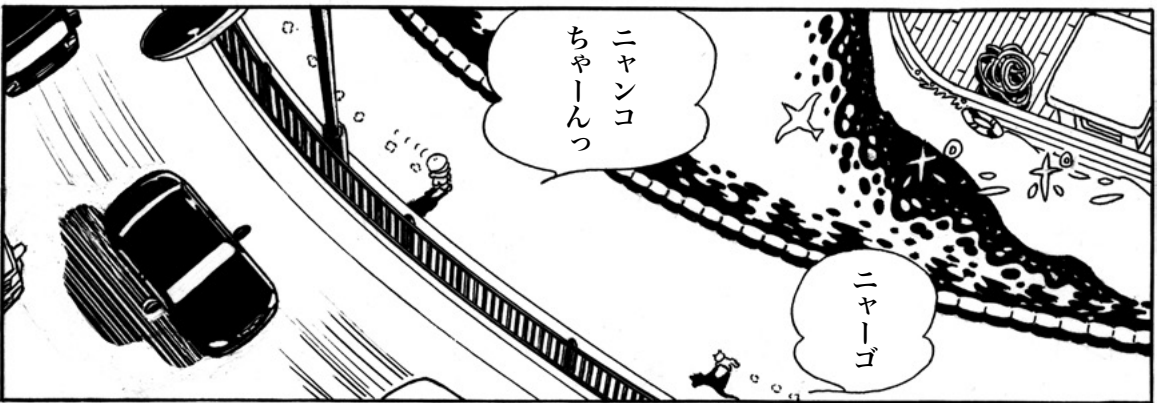
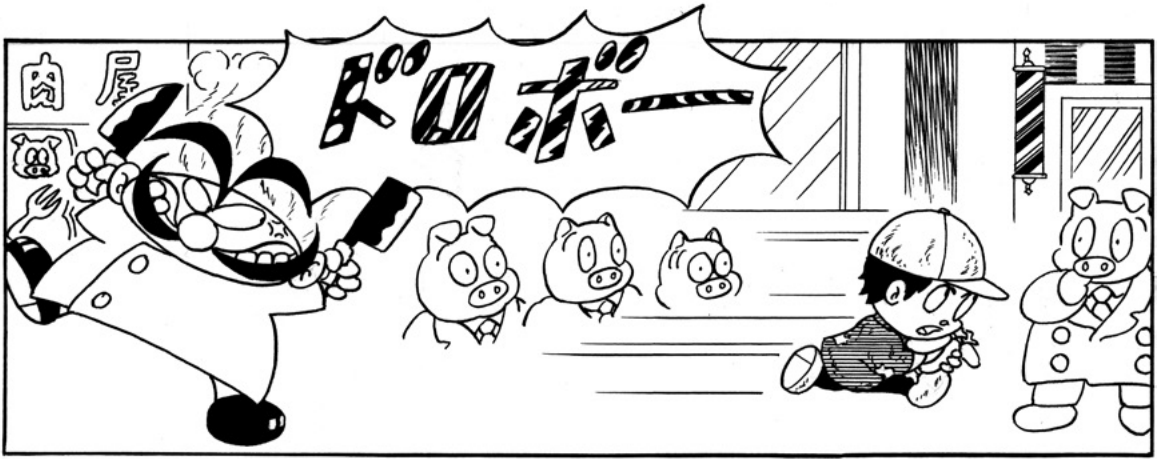
その日もあるビルの看板の取り付け
で、ハシゴを登っていました。しか
し、高所の恐怖で看板はうまく取り付
けられません。

「おれにかわれ！」といって先輩はハ
シゴを登っていきました。直後、ハシ
ゴがかたむいて、先輩はハシゴと一緒
に地面に落下していきました。

掲載作品は、新つれづれ草復刊二号
で発表した「子ネコと少年」です。







おしまい